



未知との遭遇

考查一週間前になった。先週まで朝の廊下に響いていた歌声もすっかり聞こえなくなってイイ感じ…もとい、寂しい感じである。ちなみに、国語科にいと、35Rの歌声よりも23Rの「鴉」の方がよく聞こえてくる。あの曲は（♪ついに～自由だ～）、単調そうな感じだが、情感豊かにおおらかかつ丁寧に歌うとなかなか感動的で、23Rはまだそこまではっていないが、毎朝聞かされていると、ついつい「ついに～自由だ～」と口ずさみたくなるから困ったものである。

それはさておき、つまり考查一週間前である。国・数・英は一年生の時の出題とそれほど大きな違いはない。国語に関して言えば、漢文が別立てになってしっかり問題を作成できるようになったので、是非じっくり勉強して力をつけてもらいたいと思うわけだが、量的には増えるにしても、問題の質や傾向などが大きく変わる訳ではない。従来通り、教科書を基本に、暗記するくらいまで白文を徹底的して音読しておこう。

一方、世界史や倫理、化学基礎と物理基礎は新しい先生による新しい出題だ。部活の先輩から過去問を手に入れている人も居るかも知れないが、採点された答案を手にはじめて、その先生の出題の雰囲気が分かるわけだから、その意味では今回は「未知との遭遇」とも言えるわけで、なかなか楽しい経験ができる？のではなからうか。

世界史は、ものすごく考查範囲が広く、とまどう人も多いかも知れないが、しかし実際の入試では、今回とも比較できないほど「広い範囲」ということになるわけだから、この

程度で音を上げてはいけぬ。特に文系の人のはほとんどは、日本史か世界史かのどちらかを入試科目とせざるを得なくなるはずだから（入試科目で地理や政経を選べない大学はあるが、日本史・世界史を選べない大学はない）、ここは将来に目を向けて高得点を狙っていきたいところだ。

逆に、理系に人にとっては、物理基礎・化学基礎が、来年の物理・化学と連動して、これまた入試の中心科目となる。今から不得意にならないように、しっかり取り組もう。

*

二年生までのうちに国・数・英をきっちりやっておくというのが受験勉強の基本だが、より高いレベルの入試に挑戦したいと考える人は、それにプラスして、文系なら地歴一科目、理系なら物理・化学の一科目に早めに取りかかることが必要とされている。日常の授業もあって大変だろうとは思いますが、だからこそ、相対的に好きな科目（苦手でない科目）については、授業中に理解し、復習である程度身につける…という単純な作業を繰り返しておくといよい。その準備が少しでもできていると、いよいよ本格的な受験準備という時にスムーズに問題演習へと立ち向かっていくことができるようになるのである。まったくやっておかない「0」からのスタートと、不完全なところがいっぱいあるにしろ、一通り復習はしてある段階からスタートするのとは、やはり違いがあるのである。

といわけで、最初の考查、どんな問題が出て大丈夫なようにしっかり準備しよう。